

高山自動車短期大学 防災マニュアル

◆本マニュアルは、有事に備え次の場所に保管します

本部棟(事務室)、1号館(職員室)、実習センター(ラボ)、テクニカルセンター(2F)
研究センター(3F)、図書館(事務室)、文化記念講堂(管理室)、学生会館A・C館

◆本学ホームページにも掲載 します

1 各種災害への備え

1. 日頃の心構え

- (1) 避難訓練に参加する。
- (2) 避難器具、避難経路、避難場所などの確認をしておく。
- (3) 家族との連絡方法及び待ち合わせ場所の確認をしておく。
- (4) 大学及び友人等への連絡方法の確認、リストの整備をしておく。
- (5) 帰宅ルート及び所要時間の確認をしておく。
- (6) 防災カードへ緊急時個人メモ(※1)の記入をしておく。
- (7) 転倒防止対策、防災グッズ、緊急時アイテムの確認をしておく。
- (8) 高山市HP 災害から「いのちをまもるため」の情報を確認しておく。
- (9) 災害伝言ダイヤル「171」サービスの使い方を確認しておく。

2. 大学内における防災対策

1. 高い階では多量の可燃物を扱わないようにする。
2. 室内の壁には、装置などを固定できるように横板を取り付ける。
3. 通路がふさがれる場合を想定し、避難経路を複数確保する。
4. 懐中電灯・工具・救急用具を準備する。

3. 避難／滞留について

- (1) キャンパス内では、避難場所一覧図に従い、避難または滞留する。

※学生会館については、館長の指示に従って避難する。

※状況が悪化し 校舎内が危険と判断されたとき

教員の指示 または 学内放送に従い、落ち着いて 指定の避難場所へ避難する。
負傷者は、近くにいる者が 搬送する。

2 高山自動車短期大学の避難場所一覧図

1.キャンパス内の避難場所



※状況が悪化し校舎内が危険と判断されたとき

教員の指示または学内放送に従い、落ち着いて指定の避難場所へ避難する。
負傷者は、付近にいる者が搬送する。

※避難完了後、教員は避難誘導した学生の安否確認をし、避難状況を取りまとめる。

3 災害発生時の初動対応

●震度5強以上に相当する災害が発生したとき

1	地震発生直後	自分の身を守る ・衣服や持物などで頭を覆い、落下物から身を守る。 ・机の下などに身を伏せる。 ・周辺の状況に注意し、倒壊の恐れのあるものから離れる。 自分のいる場所は安全か？ YES NO
2	揺れがおさまったら	その場所から動かない 避難する
3	各自の対応による対処	〔災害発生時の緊急対応〕 次ページ 参照 教員又は学内放送の指示に従い、指定避難場所へ避難する。
4	落ち着いたら… 1	家族の状況確認 大学へ安否状況を連絡 学生会館、自宅、アパートまで歩いて帰れるか？ 交通機関は動いているか？ *帰宅の判断基準は自宅がキャンパスから10km以内(徒歩2時間) 10km以内である 10km以上
	落ち着いたら… 2	歩いて自宅へ 避難所へ

●火災が発生した場合(火災を発見した場合)の対応

- ・大声で周囲(教職員・学生等)へ知らせる。
- ・発生場所を確認する。
- ・火災報知機のボタンを押す。
- ・119番通報する。
- ・教員の指示等により初期消火にあたる。

ただし、火が天井まで達している場合は、危険であるため安易に近づかないこと。

〔地震発生時の緊急対応〕

地震で強い揺れを感じた場合は、あわてず冷静に下記のように各自対処する。

すばやく自分の身を守るための3つの行動「まず低く、頭を守り、動かない」

1. 学内にいる時に地震が発生した場合の対応

【地震発生時】

教室の場合	●速やかに机の下にもぐり、身体(特に頭部)を守る。 落下物・倒壊物・ガラスの破片から身を守る。
実習中の場合	●直ちに中止する。可能な場合は、素早く火気の始末を行う。
廊下にいる場合	●窓が割れたり、壁が倒れてくる危険があるので、近くの教室に避難して机の下にもぐる。 ●近くに教室がない場合、蛍光灯など落下の可能性があるものや、窓のそばから離れ、衣類や持ち物で、頭を覆ってかがむ。
トレセンやグラウンドの場合	●落下物の危険がない場所に移動してしゃがみ、揺れがおさまるのを待つ。
キャンパス内(屋外)や路上を歩行中の場合	●ガラスの破片、看板などの落下物を避けるため、頭を衣類や持ち物で保護しながら、近くの空き地や頑丈な建物の中などに避難する。 ●木造建築物の中、自動販売機、ブロック塀のそば、建物の壁際などへは決して近づかない。 ●切れて垂れ下がった電線には近づかない、さわらない。 ●地面の亀裂・陥没・隆起や、電柱・塀などの倒壊に注意する。
火気使用中の場合	●揺れがおさまってから火の始末をし、電気器具などの電源を切る。 ●火の始末が不可能な場合は、まず身の安全をはかる。 ●火災が発生した場合 発生場所を確認。火災報知器を押し、119番通報する。 揺れがおさまってから消火活動を行う。 ※ただし、火が天井まで達している場合、危険であるため安易に近づかない。 初期消火が不可能と判断した場合、速やかに部屋のドアを閉めて避難し、大学に報告する。
学生会館にいる場合	●館長の指示に従い避難する。

【実習施設等での注意点】

実習施設などにおいては、次の点について注意をしてください。

- ◆可燃性ガスボンベからガスが噴出、発火した場合には、まず周囲の可燃物を除去してから注水、消火すること。
- ◆火災の大きさ、有毒ガスや煙の発生などの状況によって、とても手に負えないと判断した場合や、天井に炎が達し延焼し始めた場合には、すみやかに屋外に待避し、教職員に報告すること。
- ◆避難にあたっては電源、ガス源などを断ち、危険物などの処理をできるだけ行うこと。

【揺れがおさまったら】

- (1) 自分の安全が確保できる範囲で、初期消火、救助活動（負傷者の手当等）につとめる。
- (2) 授業中の場合、教員の指示に従い避難する。（エレベーターは使用しない）

【落ち着いたら・・・】

- (1) 家族の状況を確認する。
- (2) 大学へ安否状況を連絡する。（【大学への安否状況の連絡方法】を参照）
- (3) 大学にいる場合は学内放送に従う。
- (4) 交通機関は動いているか等の正確な情報収集をする。
- (5) 自宅への距離が 10 km以内の場合、帰宅先を大学事務局へ報告の上、帰宅する。
- (6) 自宅への距離が 10 km以上の場合、避難所へ

☆多くの公共交通機関の運行停止、帰宅抑制となった場合は、大学にいます。

2. 学外で地震にあったとき

【地震発生時】

- (1) 周辺の状況に注意し、身の安全を確保する。
- (2) 倒壊の恐れのあるものから離れ、落下物にも注意する。

<アパートで生活している場合 >

普段から非常持ち出し用の備品を準備し、避難経路の確認と家具の転倒防止措置などしておく。
また、非常時における家族との連絡方法や、安否情報の確認方法などをしっかり決めておく。

- 落下や転倒の恐れがある家具、窓際から離れ、テーブルや椅子の下に身を伏せる。
- 火の始末をする。揺れが大きい場合は無理しない。
揺れがおさまるのを待って、ガスやストーブを消し、元栓を閉める。電気器具はコンセントを抜く。
- 揺れの合間を見て、出口を確保する。
- 周囲の状況を確認してから避難。足元の散乱物や頭上の落下物に注意。電気のブレーカーを落としておく。
- 集合住宅の高層にいる場合も、エレベーターを使わない。必ず階段を使用する。
- 自分の避難先を、家の前にメモで張り出しておく。
- 周囲と声をかけ合い、助け合って消火、救出、救護活動を行う。

【揺れがおさまった後】

- (1) 被害状況を正しく把握する。
- (2) 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。
- (3) 避難中は警察や消防の指示に従う。

【避難または滞留後】

- (1) 家族の状況を確認する。
- (2) 大学へ、安否状況をメールにて連絡する。（【大学への安否状況の連絡方法】を参照）
- (3) 交通機関は動いているか等の正確な情報収集をする。
- (4) 自宅への距離が 10 km 以内の場合、帰宅先を大学へ報告の上、帰宅する。
- (5) 自宅への距離が 10 km 以上の場合、移動先を大学へ報告してから、避難所へうつる。

【帰宅する場合の注意点】

- ・交通機関は動いているか等の、正確な情報収集をする。
- ・余震がおさまってから帰宅を開始する。

【避難時の注意点】

避難する時は余震に注意しながら、周囲の人にも配慮して、落ち着いて行動してください。

- ◆衣服や持ち物などで頭を覆い、落下物から身を守る。
- ◆室内ではガラス等に注意しつつ、壁づたいに歩き、廊下は中央を通る。
- ◆できれば、ドア付近にいる人はドアを開け、出口を確保する。
- ◆負傷者や身障者を優先し、手助けをしながら避難する。
- ◆避難時は必ず階段を使う。エレベーターは使わない。
- ◆作動中・作業中の実験機器等を停止する。
- ◆その後の余震に注意し、建物の状況により、余震で倒壊する恐れのある場合は、指示された 場所へ避難する。

避難所へいくときに持っていくもの

- ◆ 水・食料(数日分)・毎日飲んでいる薬 ◆ 携帯電話用モバイルバッテリー
- ◆ うわばき・アイマスク・耳栓（避難所は学校の体育館などが多いため必要です）

※明るいうちに 自宅に到着できるようにする。

- ◆ 夜間の行動は避ける。 ◆ 幹線道路を通る。
- ◆ できるだけ、帰路が同じ方向の仲間と、一緒に帰宅すること。

☆大規模災害発生直後は、交通機関の麻痺、道路の大混雑が想定されるため、一斉帰宅が、抑制される場合があります。

【大学への安否状況の連絡方法】

大学より、メールにてお知らせします。

内容を確認し、安否状況を連絡してください。

自分の安否と避難先を、大学へ連絡してください。（友人の情報も分かればあわせて連絡する）。

「高山自動車短期大学 学生ポータルサイト」も、あわせて確認してください。

4 災害時の緊急連絡先

1 大学への緊急連絡先

名 称	電 話 番 号	備 考
大 学 事 務 局	0577-32-4440	本部棟1F事務室

【厚生課】

名 称	電 話 番 号	備 考
学 生 会 館 A チーフインストラクター	080-8254-9344	
学 生 会 館 C チーフインストラクター	080-8254-9138	
留 学 生 ・ 通 学 生 対 応	080-8254-9885	

2 災害時情報確認手段

発 信 元	URL
大 学 公 式 サ イ ト	https:// takayamacollege.ac.jp
安 否 情 報 シ ス テ ム	次のページを参照

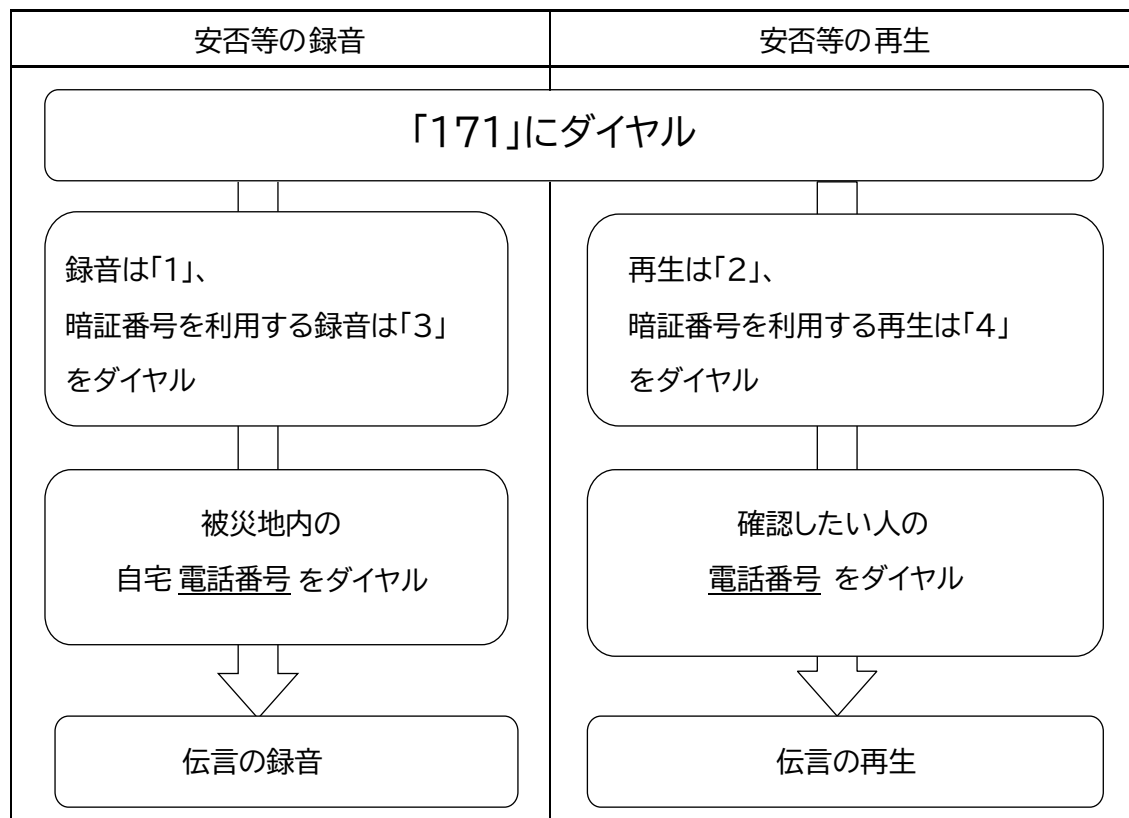
3 高山市の主な災害対策関係機関

種 類	機 関 名 称	電 話 番 号	備 考
消 防	高山消防署	119	火災・救急等
警 察	高山警察署	110	
行 政	高山市役所(代表)	0577-32-3333	
	市民保健部 健康推進課	0577-35-3160	消毒・防疫
	高山市資源リサイクルセンター	0577-35-1244	ごみ・廃棄物処理
病 院	高山日赤病院	0577-32-1111	
	久美愛厚生病院	0577-32-1115	
岐阜県緊急情報・危機管理情報HP		https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/11117/	
高山市緊急情報・危機管理情報HP		https://www.city.takayama.lg.jp/1012994/index.html	

<NTT 災害伝言ダイヤル「171」サービスについて>

音声による伝言の録音・再生を利用して、家族等との連絡に活用できます。

■利用方法



※利用できる電話について

災害用伝言ダイヤル(171)(電話サービス)の利用可能な電話は、NTT 加入電話、公衆電話、ひかり電話(電話サービス)および災害時に NTT 東日本および NTT 西日本が避難所などに設置する特設公衆電話からご利用できます。

携帯電話等からの利用については、契約している各通信事業者にお問い合わせください。

※1＜緊急時個人メモ＞

氏名(ふりがな)
学籍番号
生年月日・血液型
住所
固定電話・携帯電話・メールアドレス
家族の連絡先
家族の学校・勤務先連絡先
緊急連絡先
家族の集合場所
持病
アレルギー
服用薬名、単位(mg)、1日・回、1回・1錠

5 地震発生時の基本行動 10 カ条

1. まず、身の安全を確保

- ・最初の揺れにより、瞬時の判断が必要。
- ・あわてて外に飛び出さない。
- ・ガラス飛散の恐れがある窓際や落下・転倒の恐れがある家具などから離れる。
- ・カーテンやブラインドを閉める。
- ・机やテーブルなどの下にもぐって、身を守る。
このとき机などがぐらつかないよう、机などの脚をしっかりと押さえる。

2. すばやく火の始末

- ・揺れが大きい場合は無理しない。
揺れが収まるのを待つ。
- ・揺れが小さい場合は、使用中のガス・ストーブなどを素早く消す。
- ・ガス器具は元栓を閉め、電気器具はコンセントを抜き、ブレーカーを切る。
- ・119 番へ通報してから火災報知器のボタンを押す。

3. 脱出口を確保

- ・地震による家の歪みで扉が開かない場合、揺れを感じたら、素早く玄関・窓などを開けて非常脱出口を確保する。

4. 火災を見つけたらすぐ消火(資料参照)

- ・火が天井まで燃え移る前なら、消火できるチャンスがある。
- ・消火器やバケツなどで初期消火をする。
- ・消火不能な場合は、直ちに部屋のドアを閉め、火災が発生したことを大声で周囲に伝えながら避難する。
- ・火災で煙が発生したら身をかがめ、水で湿らせたハンカチなどで口をふさぎ、煙を吸い込まないように注意して避難する。

5. 外へ逃げるときは、あわてずに

- ・揺れが収まるのを待って、周囲の状況を確認してから避難すること。
- ・足元の散乱物や、頭上の落下物に注意して避難する
素足はダメ。
- ・電気が復旧した時、火災の原因になるので、ブレーカーを切っておく。
- ・エレベーターはダメ。階段を使用すること。

6. 狭い路地・崖・川べりに近づかない

- ・狭い路地や塀際では、瓦などが落ちてきたり、ブロック塀や自動販売機が倒れてきたりすることがあるので近づかない。
- ・崖や川べりは、地盤のゆるみで崩れやすくなっている場合があるので、近づかない。

7. 協力しあって消火・救出・救護

- ・近所で火災が発生していたり、閉じ込められている人がいたら、近隣住民と協力しあって消火・救助にあたる。
- ・災害時には、病院等で手当できる患者の人数に限りがあるので、軽症者などの処置は、お互いに協力しあって応急救護をする。

8. 避難は徒歩で

- ・まず大学へ連絡をして、指示に従う。
- ・避難に車を使わない。
- ・誰が何を持ち出すのか、家庭内で役割分担を決めておく。
- ・家族が離れ離れになった場合の集合先、連絡方法を決めておく。

9. 山崩れ・崖崩れ・津波に注意

- ・山・崖崩れや津波などの危険が予想される地域は、避難命令を待たず、すぐに避難を開始する。
- ・海岸の近くで揺れを感じたら、津波発生を警戒しすみやかに高台やビルの屋上などに避難する。

10. 正しい情報を確認

- ・ラジオや市町の防災無線などから正確な情報をつかみ、的確な行動を取る。
- ・デマや噂に惑わされない。
- ・地震直後で携帯ラジオがない場合、カーラジオを利用するのも一つの方法。